

でんおん連続講座 (A・B・C)

「でんおん連続講座」では、多くの方に日本の伝統音楽や芸能について理解を深めていただけるよう、音源・映像を用いて説明を行いつつ、歴史的資料、口伝書、楽譜などの演奏資料を読み進めます。専門的なテーマに気軽に触れていただける市民講座となっております。皆様のご参加をお待ちしております。



A

4月15日～
7月22日
各回 火曜日
13時00分～14時30分

受講料
5,000円
(全15回)

歌舞伎音楽入門2 一豊後系浄瑠璃を軸に— 講師：竹内有一 (日本伝統音楽研究センター准教授)

内容

日時

歌舞伎における中心的な音楽の一つとして発展してきた豊後系浄瑠璃(常磐津節など)を軸にして、歌舞伎音楽の歴史と特色を学びます。各種の文献資料(初演時の興行資料、錦絵、稽古本・譜本、伝記資料等)の解説に関連づけて、AV資料の視聴や浄瑠璃(常磐津節)を語るワークショップを随時交えます。

【お知らせ】都合により「休講」や若干の内容変更の可能性もありますのでご了承ください。京都南座歌舞伎公演の鑑賞会は別途切符代(3000円程度)を要します。

- 第1回(4月15日) 導入:劇場空間と歌舞伎音楽
- 第2回(4月22日) 歌舞伎音楽の分類と現在
- 第3回(4月29日) 歌舞伎舞踊曲の研究1:南座歌舞伎公演の予習1
- 第4回(5月6日) 歌舞伎舞踊曲の研究2:南座歌舞伎公演の予習2
- 第5回(5月13日) 歌舞伎公演「歌舞伎鑑賞教室」鑑賞会【会場:京都南座】
- 第6回(5月20日) 歌舞伎音楽の歴史と展開1
- 第7回(5月27日) 歌舞伎音楽の歴史と展開2
- 第8回(6月3日) 浄瑠璃の歴史と種類1
- 第9回(6月10日) 浄瑠璃の歴史と種類2
- 第10回(6月17日) 黒御簾音楽の特色と役割1
- 第11回(6月24日) 黒御簾音楽の特色と役割2
- 第12回(7月1日) 豊後系浄瑠璃(常磐津節)の研究1
- 第13回(7月8日) 豊後系浄瑠璃(常磐津節)の研究2
- 第14回(7月15日) 豊後系浄瑠璃(常磐津節)の研究3
- 第15回(7月22日) まとめ

申込方法

はがき、FAX、電子メールのいずれかの方法により、①郵便番号、②住所、③氏名、④電話番号(FAX番号)、⑤希望する講座をご記入の上、お申込みください。

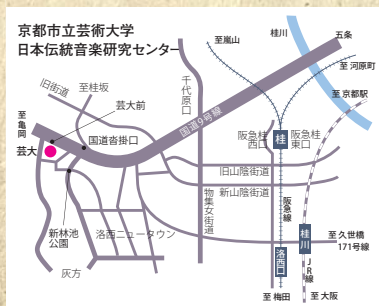
申込先・問い合わせ先
京都市立芸術大学
教務学生支援室(事業推進担当)
〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13-6
電話 / 075-334-2204
FAX / 075-334-2241
E-mail / public@kcua.ac.jp

各講座ともに定員50名
平成26年3月24日(月)から
上記方法にて受付。

※定員に達した場合は締切ります

会場

京都市立芸術大学
新研究棟7階 合同研究室1
京都市西京区大枝沓掛町13-6



阪急桂駅東口
【セブンイレブン前の2番のりば】
京阪京都交通バス
12・13・14・25・28系統に乗車約15分
「芸大前」下車すぐ ※平日の日中は毎時平均3本運行

阪急桂駅西口
市バス 西1・西5・西8系統に乗車約20分
「新林池公園」下車徒歩10分

JR京都駅丸の内口
【C2のりば】京阪京都交通バス
2・28系統に乗車約45分「芸大前」下車すぐ
【C5のりば】市バス
73系統に乗車約45分「国道沓掛口」下車徒歩10分

JR桂川駅
京阪京都交通バス
11A系統に乗車約15分または12A系統に乗車約20分
「芸大前」下車すぐ
ヤサカバス
1号系統(桂坂中央行き)乗車約15分「新林池公園」
または「国道沓掛口」下車徒歩10分

B

5月7日～
7月9日
各回 水曜日
10時40分～12時10分

受講料
5,000円
(全10回)

能の音曲としての骨組み 一囃子、曲節、拍子、吟 講師：藤田隆則 (日本伝統音楽研究センター教授)

内容

日時

室町時代に成立した能。2時間にもおよぶ力のこもる演技をしっかりと受けとめるためには、謡の内容理解に加え、囃子や音曲の理解も必要です。本講座では、能一番の小段の流れに焦点をあてて、音曲面の組立ての理解を試みます。能の鑑賞歴・稽古歴は長くても、わかったという実感が得られないと感じられる方、音楽面への関心がある方、ぜひ受講してください。

- 第1回(5月7日) 役者の登場
- 第2回(5月14日) 人物の登場(その1)
- 第3回(5月21日) 人物の登場(その2)
- 第4回(5月28日) 人物による物語の展開(その1)
- 第5回(6月4日) 人物による物語の展開(その2)
- 第6回(6月11日) 人物による物語の展開(その3)
- 第7回(6月18日) 人物による物語の展開(その4)
- 第8回(6月25日) 物語の結末(キリ)と祝言
- 第9回(7月2日) 復習:名尽くし謡を歌う(その1)
- 第10回(7月9日) 復習:名尽くし謡を歌う(その2)

C

5月7日～
6月11日
各回 水曜日
13時00分～14時30分

受講料
3,000円
(全6回)

音楽としての義太夫節 講師：山田智恵子 (日本伝統音楽研究センター教授)

内容

日時

人形浄瑠璃文楽の音楽である義太夫節は、近年まで多くの人々にとって身近なものでした。しかし現在は、耳慣れない、長ったらしい、何をいっているかわからない、共感する人はほとんどいない人が多くなっているのではないのでしょうか。

そこでこの講義では、ことば(詞章)と旋律の関係に着目し、音楽としての義太夫節にスポットを当てます。今年度は、音楽的魅力に溢れた名曲「伽羅先代萩 御殿の段」を取り上げ、詞章を音読したあと、実際の演奏を聴いていきます。七五調のことばのリズムや、発音の実際と義太夫節の音楽表現を体感することで、一つのことばがいかに巧みに音の世界で表現されているかを理解して、文楽を耳からも楽しめるようになることを目指します。

- 第1回(5月7日) 「御殿の段」の構成と音楽的特徴
- 第2回(5月14日) 「御殿の段」テキストの音読と音楽その1
- 第3回(5月21日) 「御殿の段」テキストの音読と音楽その2
- 第4回(5月28日) 「御殿の段」テキストの音読と音楽その3
- 第5回(6月4日) 「御殿の段」テキストの音読と音楽その4
- 第6回(6月11日) 「御殿の段」テキストの音読と音楽その5